

【公報種別】特許法第 17 条の 2 の規定による補正の掲載

【部門区分】第 3 部門第 3 区分

【発行日】平成 17 年 8 月 18 日 (2005.8.18)

【公開番号】特開 2003-221506 (P2003-221506A)

【公開日】平成 15 年 8 月 8 日 (2003.8.8)

【出願番号】特願 2002-24546 (P2002-24546)

【国際特許分類第 7 版】

C 0 8 L 83/04

C 0 8 K 5/5415

C 0 8 K 5/5435

C 0 8 K 5/544

【 F I 】

C 0 8 L 83/04

C 0 8 K 5/5415

C 0 8 K 5/5435

C 0 8 K 5/544

【手続補正書】

【提出日】平成 17 年 1 月 28 日 (2005.1.28)

【手続補正 1】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0 0 3 6

【補正方法】変更

【補正の内容】

【 0 0 3 6 】

【実施例 7】

粘度 12, 000 mPa・S の分子鎖両末端がメチルジメトキシシリル基で封鎖されたジメチルポリシロキサン 100 部と脂肪酸処理された炭酸カルシウム粉末（白石工業株式会社製、商品名 白艶華 CCR、平均粒子径 0.08 μm）の 100 部とを均一になるまで混合した。この組成物にメチルトリメトキシシラン 2 部、1,6-ビス（トリメトキシシリル）ヘキサン 2 部、参考例 1 で得られた接着付与剤 A 1 部およびジイソプロポキシビス（アセト酢酸エチル）チタン 1 部を添加し、湿気遮断下で均一になるまで混合した。

次いで、この組成物について、前記 J I S A 5758 に準じた接着耐久性を測定した。なお、本実施例では、接着耐久試験体を温度 23、湿度 50% の条件下で 14 日間放置して室温硬化性シリコーンゴム組成物を硬化させた。得られた接着耐久試験体について引張接着強さを測定し、合わせてシリコーンゴムの破断状態を観察した。また、この接着耐久試験体を 80 の温水中に 14 日間浸漬した後、取り出し、この接着耐久試験体について引張接着強さを測定し、合わせてシリコーンゴムの破断状態を観察した。これらの結果を表 8 に示した。